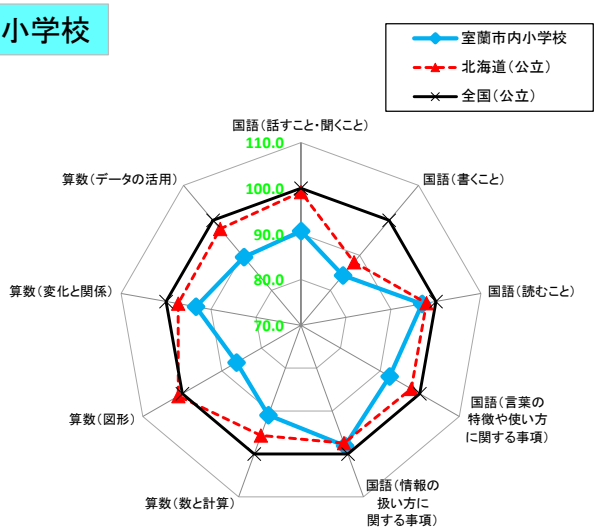
■室蘭市内の状況及び学力向上策　（小学校数：9校 、児童数：521人）（中学校数：7校 、生徒数：481人）

【教科全体の状況】

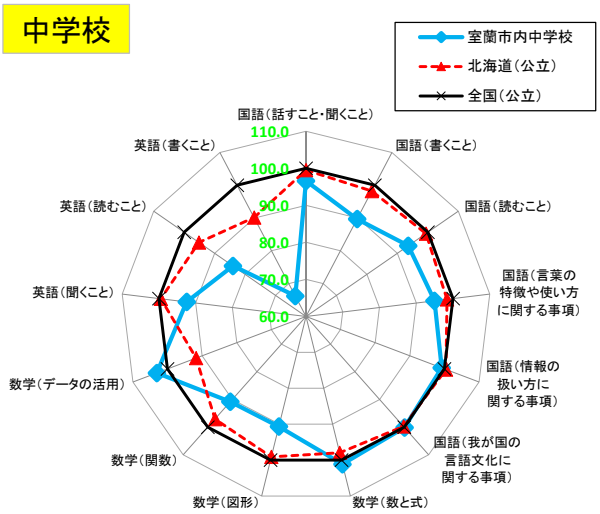
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	67
算数・数学	56	50
英語	―	39

小学校

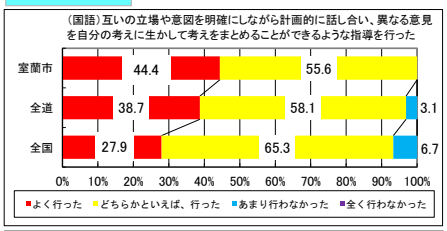


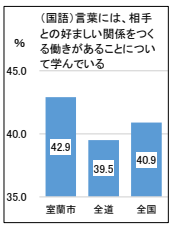
中学校

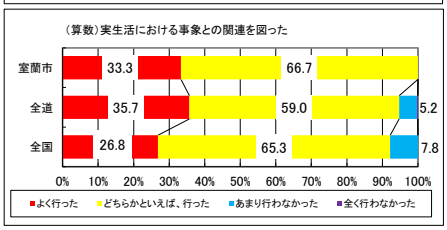


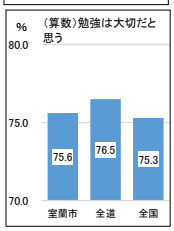
【質問紙の状況】

小学校

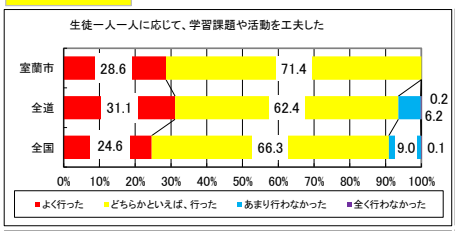


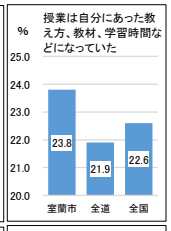


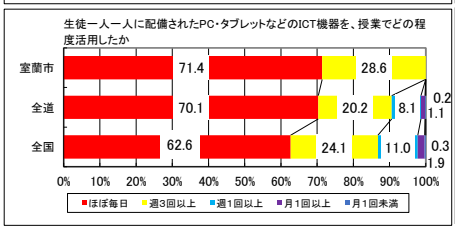


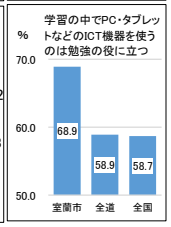


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
市全体で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進したことにより、国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	市独自の「学力向上プランシート」に基づく各学校の組織的な取組を推進したことにより、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したと回答した学校の割合が全国を上回るとともに、授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
市全体で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進したことにより、算数の授業において、実生活における事象との関連を図ったと回答した学校の割合が全国を上回るとともに、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	市全体でICTを活用した授業改善を推進したことにより、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で活用するようになり、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【室蘭市の学力向上策】

【Webページ】

◎　市独自の「学力向上プランシート」に基づく検証改善サイクルの確立に向けた各学校の組織的な取組の推進
◎　小中連携教育の充実による教員の指導力向上や学力向上に向けた取組の実施
◎　ICT端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

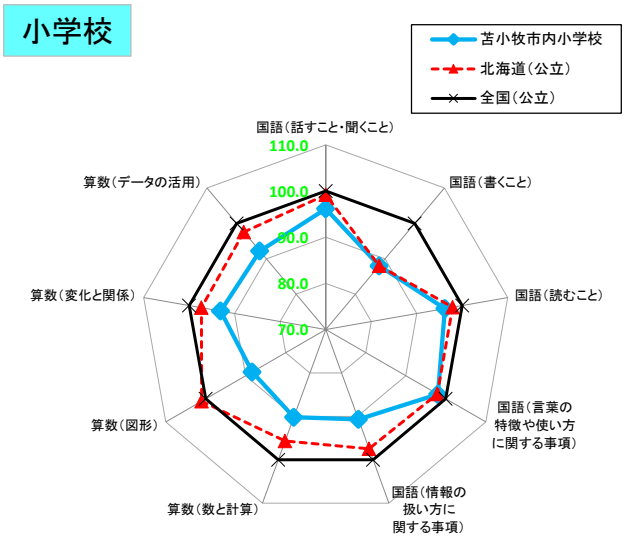
■苫小牧市内の状況及び学力向上策　（小学校数：23校 、児童数：1375人）（中学校数：15校 、生徒数：1279人）

【教科全体の状況】

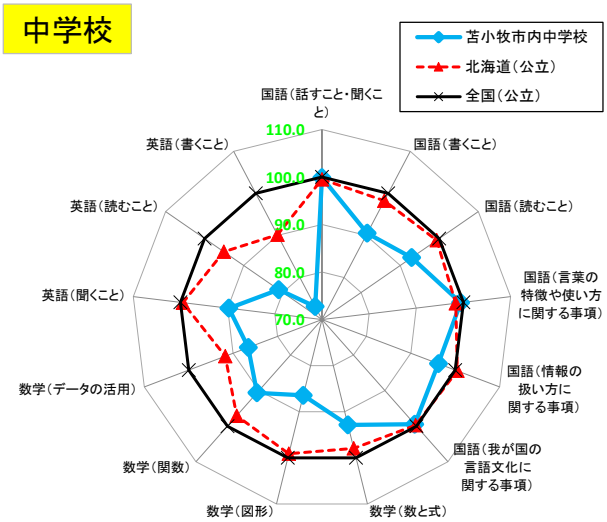
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	68
算数・数学	57	46
英語	―	38

小学校

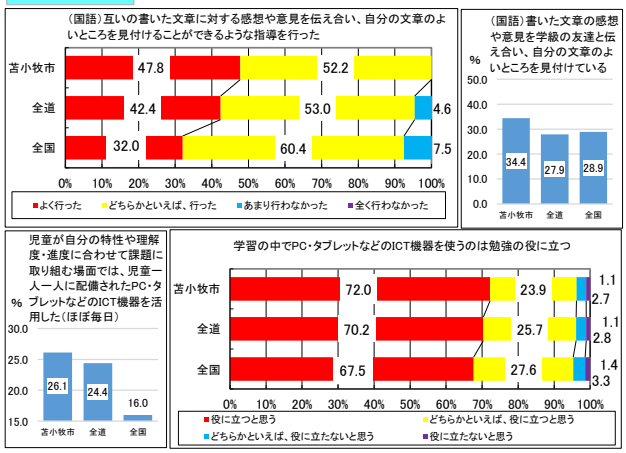


中学校

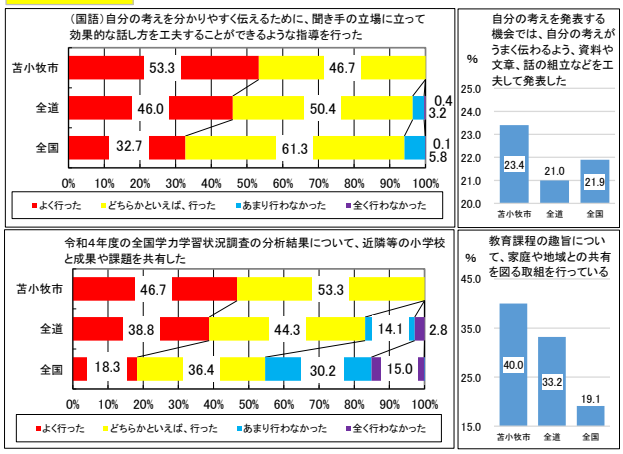


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、児童が書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるようになり、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全道と同様になったと考えられる。	国語の授業において、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行ったことにより、生徒は自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表するようになり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全道を上回るとともに全国に最も近付いたと考えられる。
市全体でICT機器を活用した個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けた授業改善を推進したことにより、児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	市全体で「苫小牧ALL―9」による小・中学校間の一貫・連携した指導を推進したことにより、全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したと回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていると回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【苫小牧市の学力向上策】

【Webページ】

◎　苫小牧型小中連携教育「苫小牧ALL―9」による小・中学校間の一貫・連携した指導の推進
◎　ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
◎　市内共通取組事項「焦点化・イメージ化・視覚化」に基づく授業改善の推進

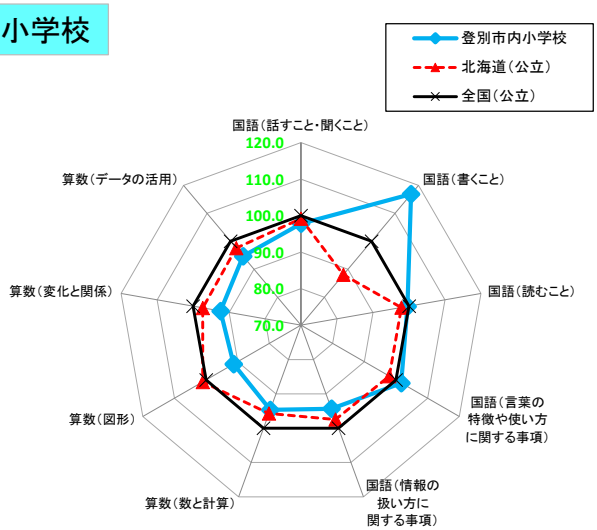
■登別市内の状況及び学力向上策　（小学校数:8校 、児童数:292人）（中学校数:5校 、生徒数:296人）

【教科全体の状況】

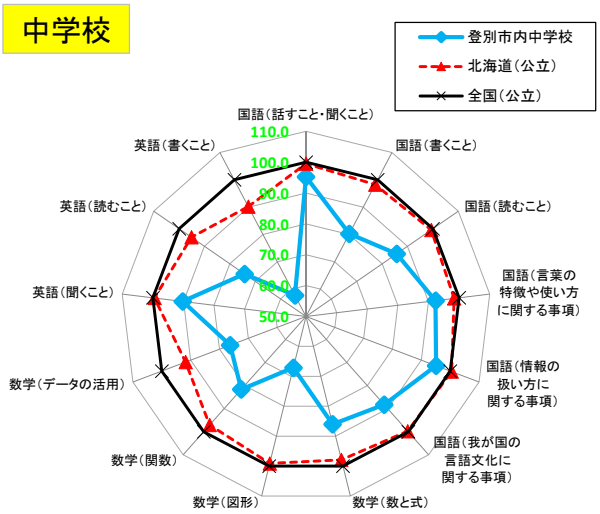
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	62
算数・数学	58	41
英語	―	36

小学校

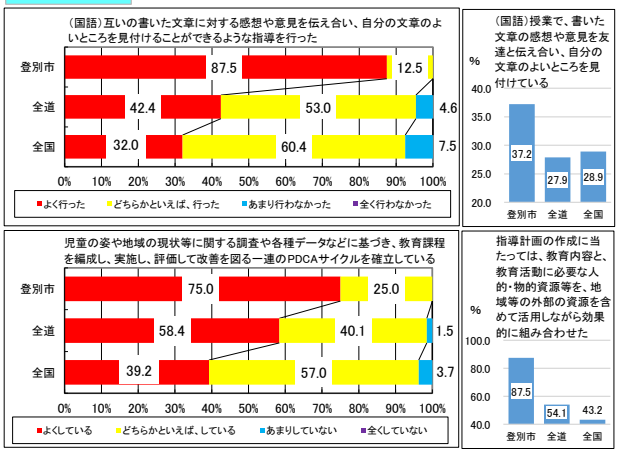


中学校

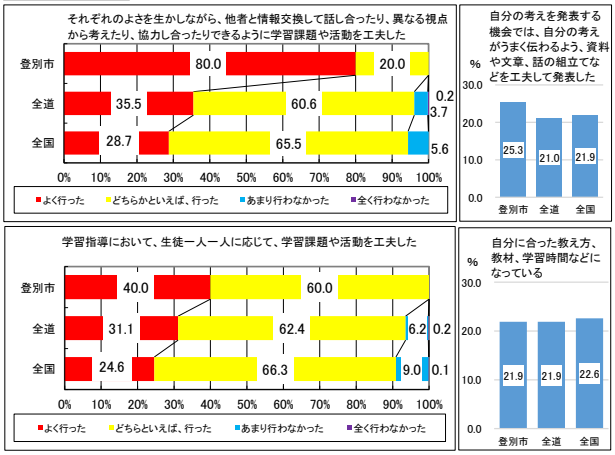


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、児童が書いた文章の感想や意見を友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるようになり、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、生徒が自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表するようになり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国に最も近づいたと考えられる。
登別市教育課程課題検討委員会等と連携した取組を充実させたことにより、児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したと回答した学校の割合及び指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	登別市内好実践例集を活用した学習指導の充実を図るなど、市全体で授業改善を推進したことにより、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していると回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていると回答した生徒の割合が全道と同様になったと考えられる。

【登別市の学力向上策】

◎　登別市内好実践例集を活用した学習指導の充実
◎　教員の指導力向上に向けた登別市教育課程課題検討委員会等と連携した取組の充実
◎　「登別市小中一貫教育基本方針」に基づいた小・中学校9年間を見通した学習指導の充実
◎　市情報教育推進協議会と連携したICT端末を活用しオンライン上で学習するための環境整備

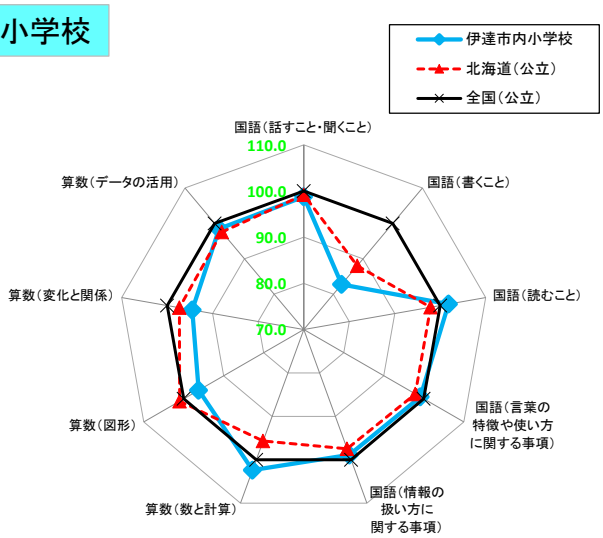
■伊達市内の状況及び学力向上策　（小学校数:5校 、児童数:213人）（中学校数:3校 、生徒数:225人）

【教科全体の状況】

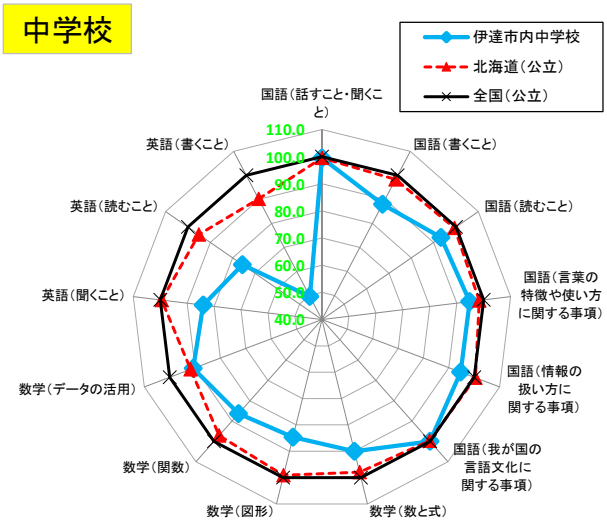
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	67
算数・数学	62	45
英語	―	34

小学校

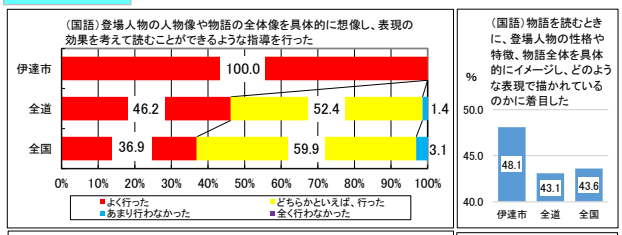


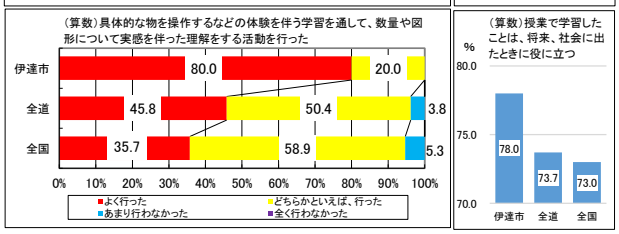
中学校



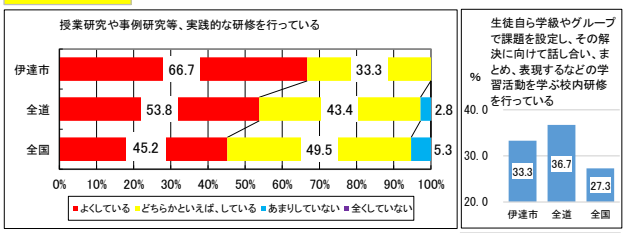
【質問紙の状況】

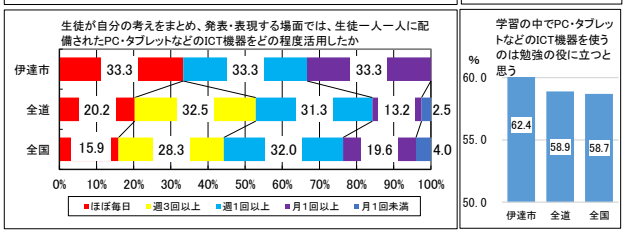
小学校





中学校





【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、児童が物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目して読むようになり、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	「伊達市学力テスト」等の結果を基にした授業改善を推進するなど、市全体で学力向上策を講じたことにより、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていると回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていると回答した学校の割合が全国を上回ったと考えられる。
算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、算数の「数と計算」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	市全体でICT機器を活用した授業改善の推進及びオンライン学習を実施したことにより、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT端末をほぼ毎日使用させたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは、勉強に役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【伊達市の学力向上策】

◎ 「伊達市学力テスト」等の結果を基にした授業改善策の推進
◎ 指導内容の連続性や系統性を重視した小中高連携の推進
◎ ICT機器及びデジタル教材を活用した授業改善の推進及びオンライン学習の実施

【Webページ】
（R5.11掲載予定）

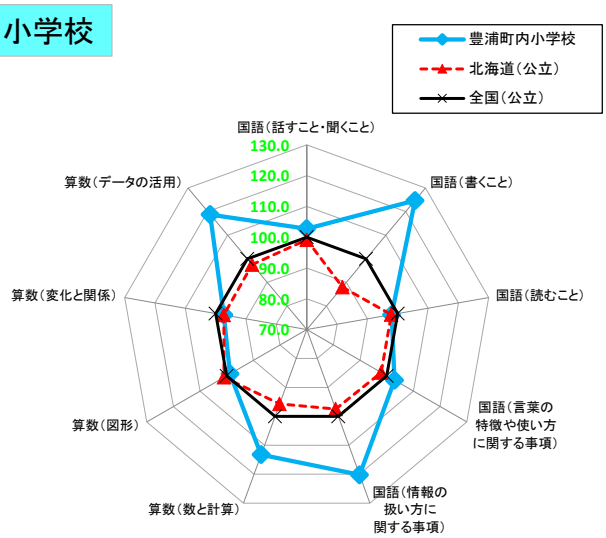
■豊浦町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：21人）（中学校数：1校 、生徒数：15人）

【教科全体の状況】

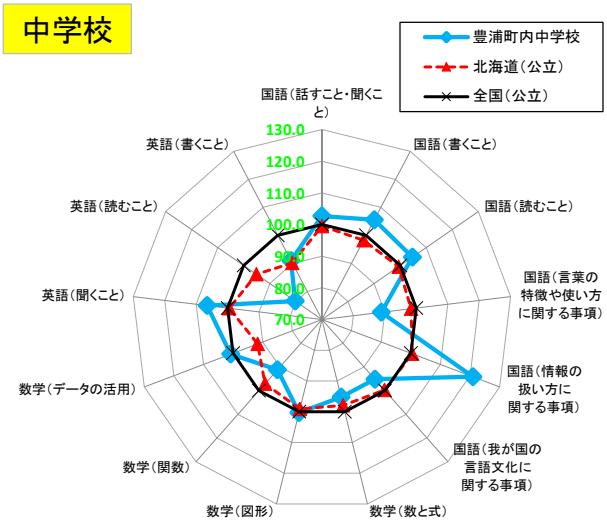
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	71
算数・数学	67	49
英語	―	43

小学校

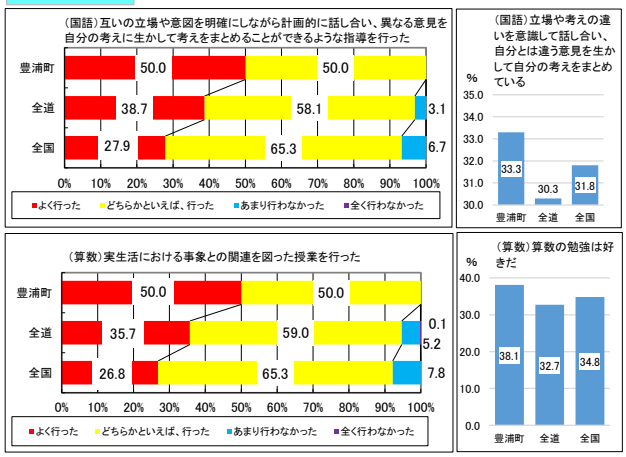


中学校

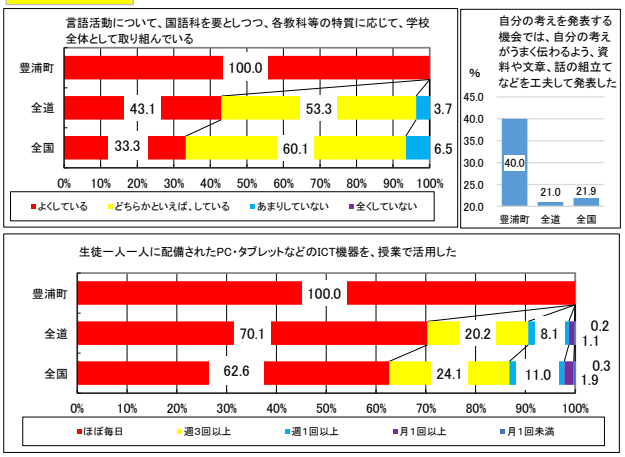


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、児童が立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめるようになり、国語の２領域２事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、生徒が自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表するようになり、国語の３領域１事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、児童が算数の勉強は好きだと思うようになり、算数の２領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	町全体でICT機器を活用した授業改善を推進したことにより、学校が生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用するようになったと考えられる。

【豊浦町の学力向上策】

◎　教育委員会主催の研修会等による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の授業改善の推進
◎　社会教育と連携した地域の人材や教材の活用による「ふるさと教育」の推進
◎　小中連携による乗り入れ授業の実施及びICT機器を活用した授業実践の共有

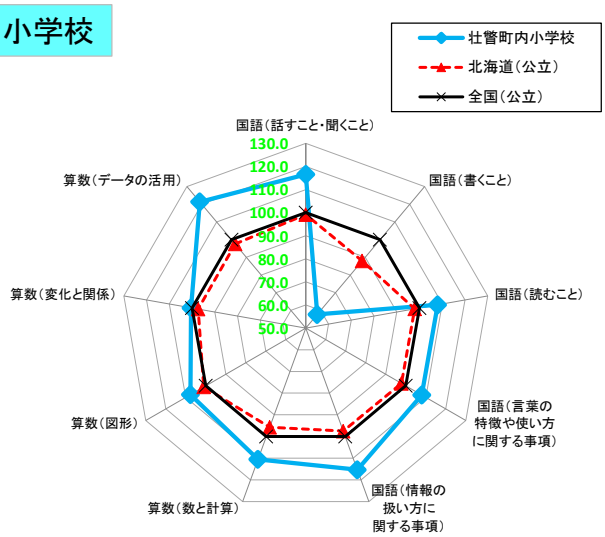
■壮瞥町内の状況及び学力向上策　（小学校数:1校 、児童数:13人）（中学校数:1校 、生徒数:16人）

【教科全体の状況】

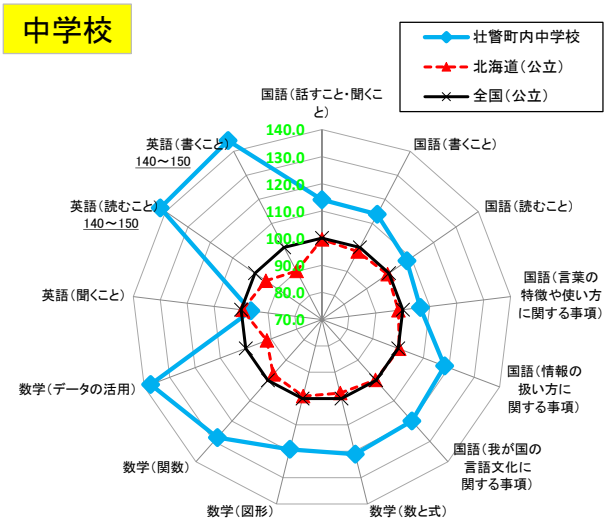
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	74	79
算数・数学	68	64
英語	―	56

小学校

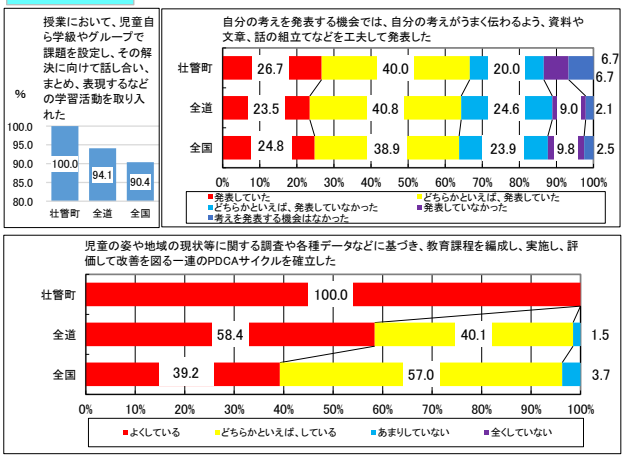


中学校

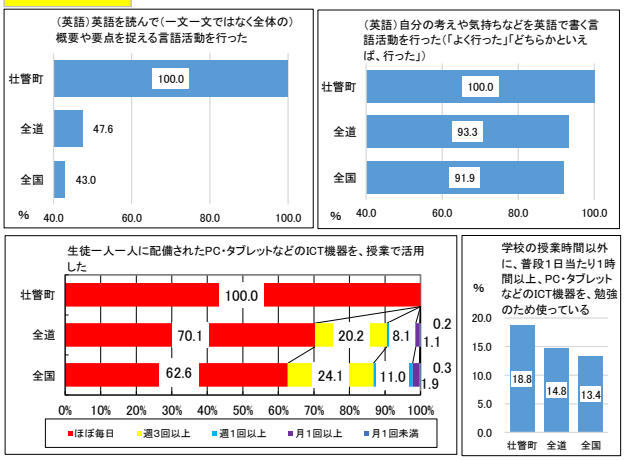


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、児童が自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表するようになり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	英語の授業において英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点を捉える言語活動を行うとともに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったことにより、英語の「読むこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町全体で客観的データに基づく課題の明確化及び改善に向けた取組を推進したことにより、学校が児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立するようになり、国語の2領域2事項及び算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	町全体で1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善を推進したことにより、学校が生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用し、学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のため使っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【壮瞥町の学力向上策】

◎　各学校における客観的データに基づく課題の明確化及び改善に向けた取組の推進
◎　小中一貫教育推進委員会における9年間を見通した目標や教育課程の編成による小中連携の充実
◎　1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善の推進

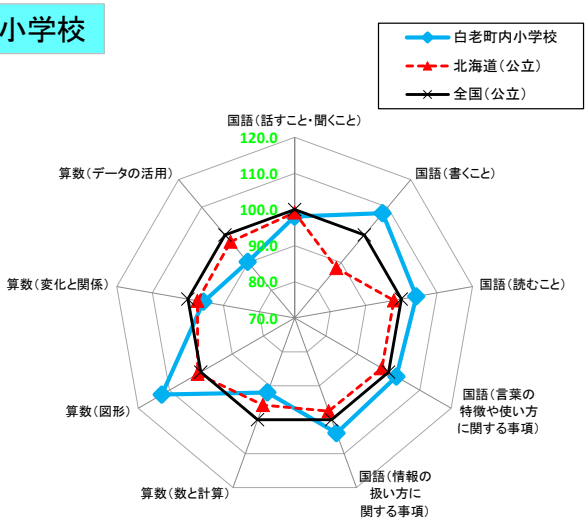
■白老町内の状況及び学力向上策　（小学校数：4校 、児童数：66人）（中学校数：2校 、生徒数：70人）

【教科全体の状況】

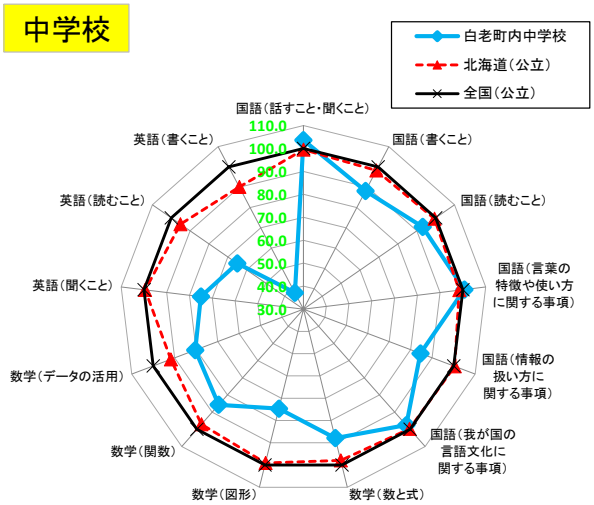
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	66
算数・数学	61	43
英語	―	30

小学校

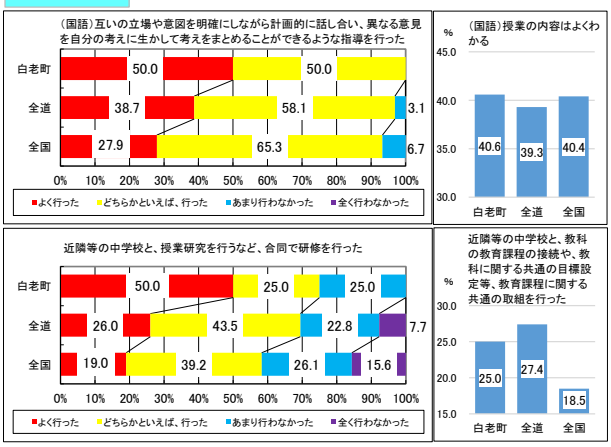


中学校

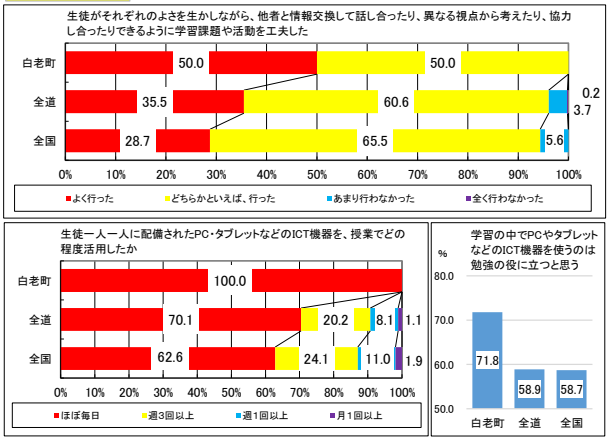


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、国語の2領域2事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	「白老町スタンダード」を活用するなど、町全体で確かな学力の定着を図る取組を推進したことにより、学校が授業において生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動とともに、生徒がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫するようになり、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町教育研究会を活用した小中連携の充実及び小中一貫教育の推進を図ったことにより、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行った学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行ったと回答した学校の割合が全国を上回ったと考えられる。	町全体でICT端末を活用した取組を推進したことにより、全ての学校で生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用するとともに、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【白老町の学力向上策】

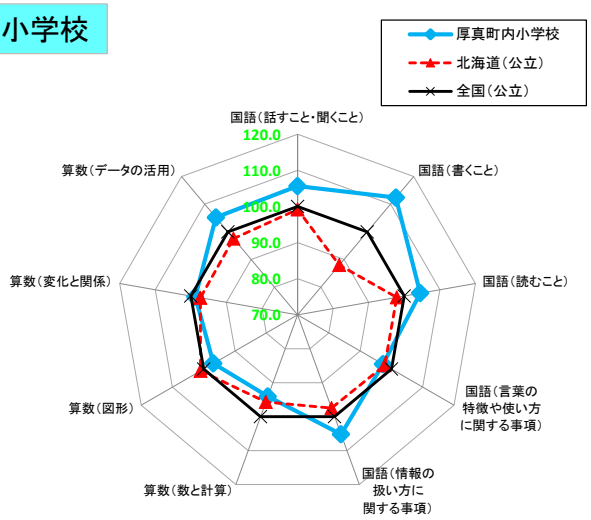
◎　「白老町スタンダード（白老の底力）」を基軸にした確かな学力の定着を図る取組の推進
◎　小規模校における遠隔授業の実施及びICT端末を活用した取組の推進
◎　町教育研究会を活用した小中一貫教育の充実及び小中連携教育の推進

■厚真町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：30人）（中学校数：2校 、生徒数：41人）

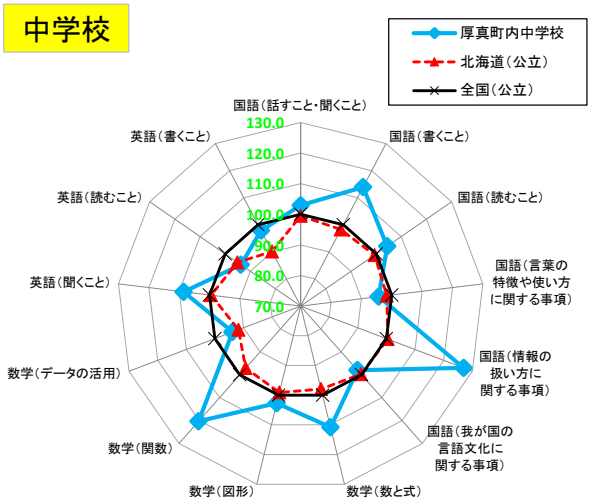
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

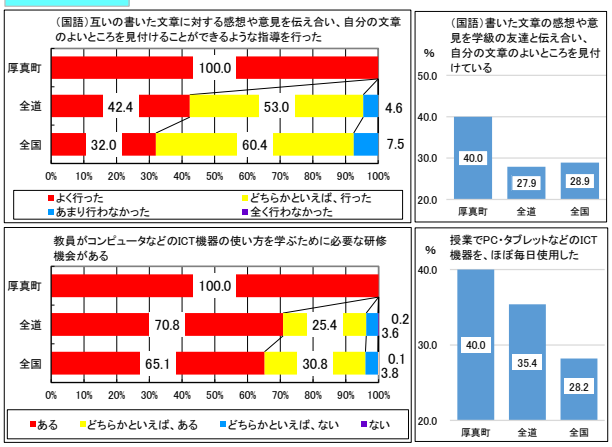


中学校

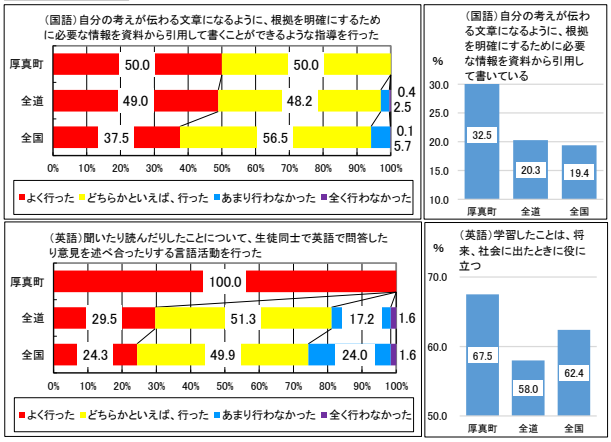


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、児童が書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けるようになり、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	国語の授業において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
厚真町教育研究所を中心に、町全体でICT機器を効果的に活用した授業改善を推進したことにより、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があると回答した学校の割合が全国及び全道を上回るとともに、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	英語の授業において、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行ったことにより、英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、英語の「聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【厚真町の学力向上策】

◎　児童生徒の学習課題解決に向けた学校改善プランの実践と検証
◎　「厚真の未来を語れる子」の育成に向けた小中一貫教育の取組の推進
◎　厚真町教育研究所を中心とした個別最適な学びの推進とICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

【Webページ】

（後日掲載予定）

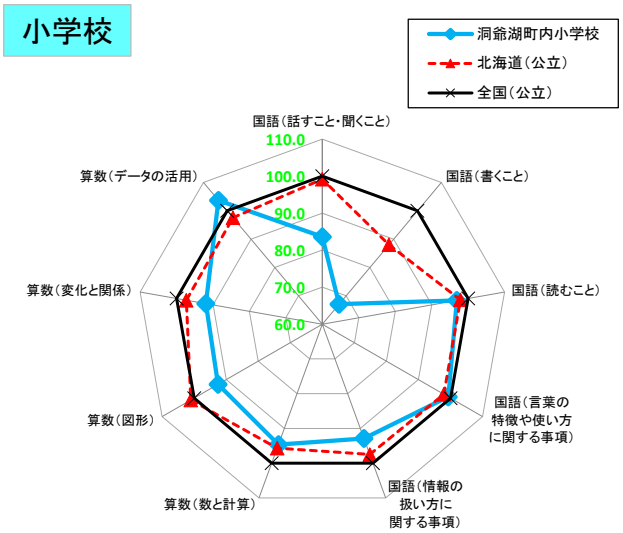
■洞爺湖町内の状況及び学力向上策　（小学校数:3校 、児童数:28人）（中学校数:2校 、生徒数:41人）

【教科全体の状況】

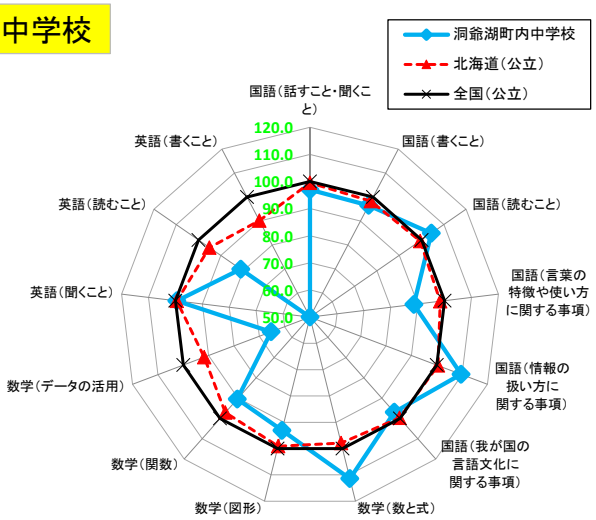
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	69
算数・数学	59	48
英語	―	39

小学校

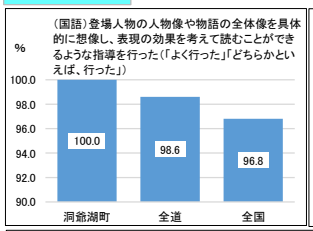


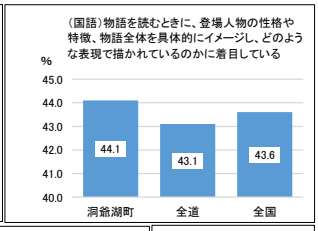
中学校

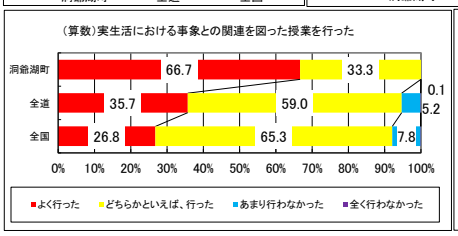


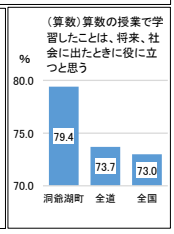
【質問紙の状況】

小学校

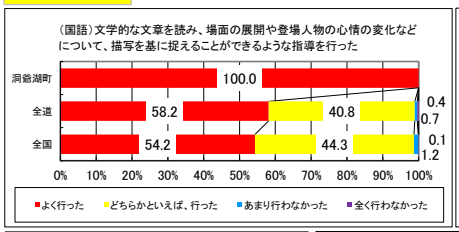


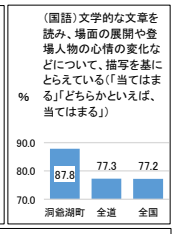


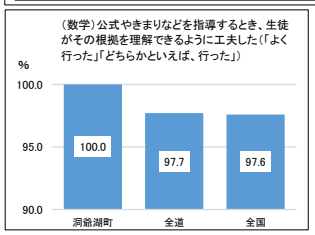


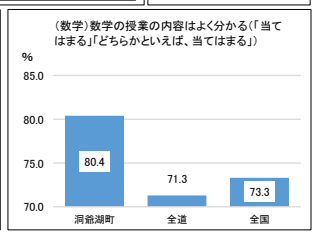


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行ったことにより、児童が物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目するようになり、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国に最も近づいたと考えられる。	国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえることができるような指導を行ったことにより、生徒が文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえるようになり、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、児童が算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うようになるとともに、算数の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、生徒が数学の授業の内容がよく分かるようになるとともに、数学の「数と式」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【洞爺湖町の学力向上策】

◎　授業改善の視点や家庭学習の充実に向けた取組を示した学力向上指標「スタンダード5」による町内共通の取組の徹底
◎　ICT端末の授業での効果的な活用や持ち帰りなど、日常的な活用に向けた取組の推進
◎　学校外における町営の家庭学習補充事業等(地域未来塾等)の取組の推進

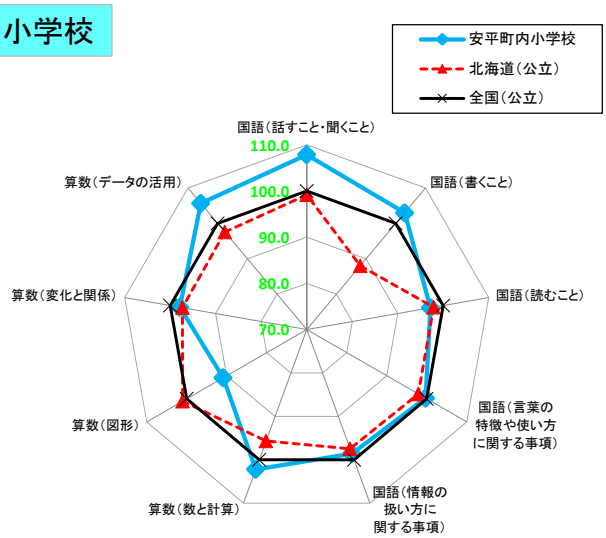
■安平町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：40人）（中学校数：2校 、生徒数：43人）

【教科全体の状況】

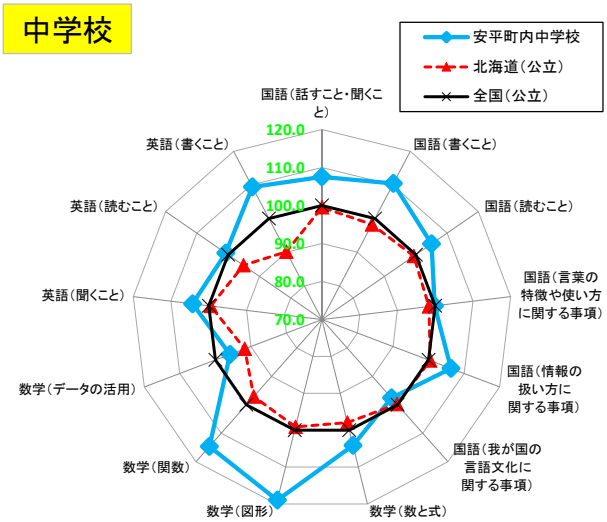
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	73
算数・数学	62	55
英語	―	47

小学校

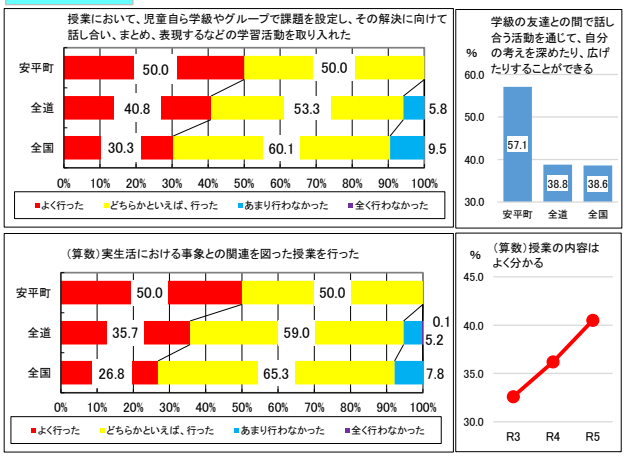


中学校

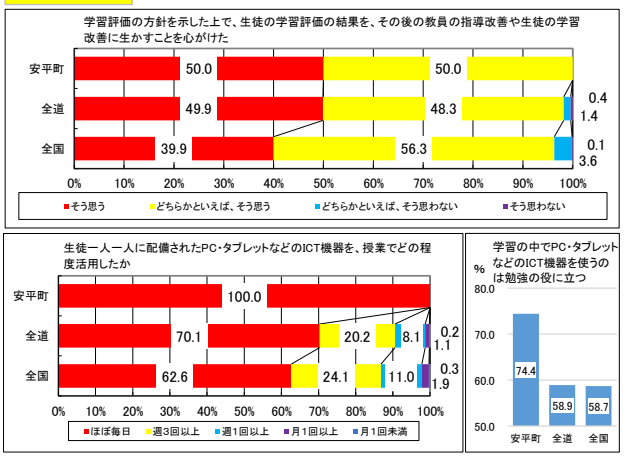


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、児童が学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになり、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	「安平町ハンドブック」を作成し町全体で授業改善や教員の授業力向上に取り組んだことにより、学校が学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけるようになり、国語の３領域２事項、数学の３領域及び英語の３領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
算数の授業において、実生活における事象との関連を図ったことにより、児童が授業の内容がよく分かるようになり、算数の「数と計算」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。	町独自でICTを活用した授業改善に係る研修会等を実施したことにより、全ての学校で生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用するとともに、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【安平町の学力向上策】

◎　「安平町ハンドブック」の活用による授業改善及び教員の授業力向上に向けた取組の推進
◎　９年間を見通した指導計画の作成及び乗り入れ授業等による小中一貫教育の充実
◎　ICT機器やデジタル教材・アプリ等の有効活用に向けた授業交流及び研修会等の実施

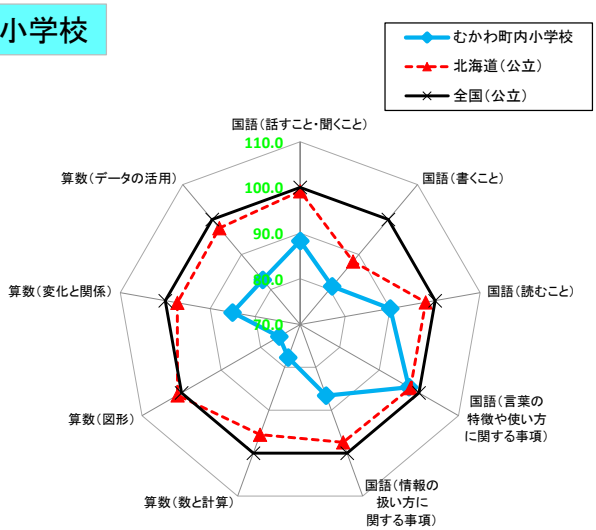
■むかわ町内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:51人）（中学校数:2校 、生徒数:43人）

【教科全体の状況】

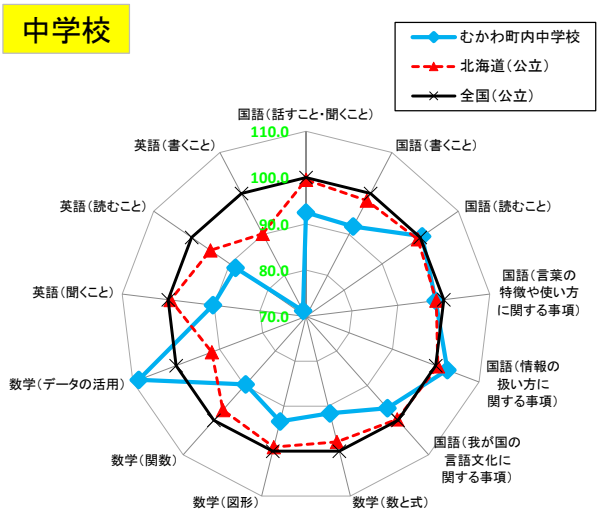
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	67
算数・数学	49	48
英語	―	40

小学校

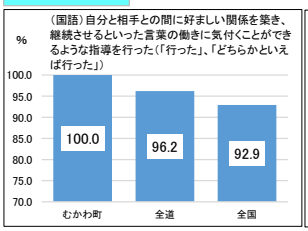


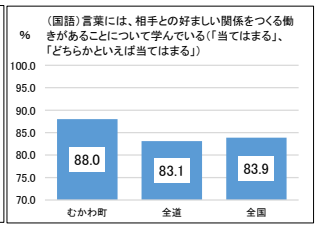
中学校

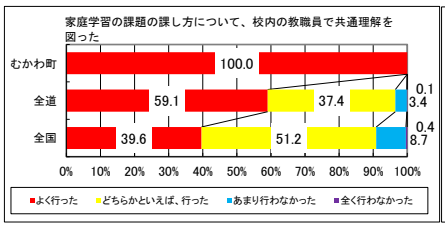


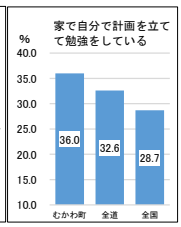
【質問紙の状況】

小学校

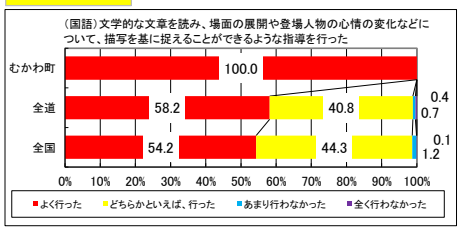


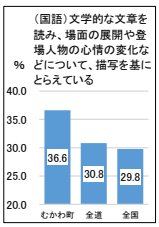


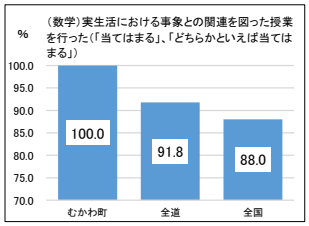


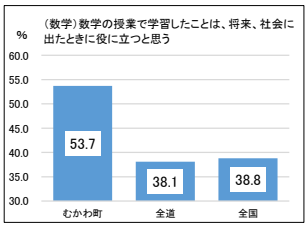


中学校









【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行ったことにより、児童が言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学ぶようになり、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で平均正答率が全国に最も近づいたと考えられる。	国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえることができるような指導を行ったことにより、生徒が文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえるようになり、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
町全体で「家庭学習の手引き」を活用した望ましい生活・学習習慣の定着に向けた取組を行ったことにより、各学校で家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図るなど取組を充実させるようになり、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。	数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回るとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【むかわ町の学力向上策】

◎　「家庭学習の手引き」を活用した望ましい生活・学習習慣の定着に向けた取組の推進

◎　対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド学習の実施

◎　地域を担う人材育成を目的とした夢叶輪（むかわ）公営塾の開設